

# 浦幌の皆さんを よろしくね！

～熱い握手でバトンタッチ！～

英語指導助手のジェシカさん(左)が離任し、8月から  
グウェンドリン・A・ロスさんが新しく着任しました。



## ありがとう、ジェシカさん

### ■3年前の最初の印象は？

来たのは8月でしたが、広くて緑が一杯で景色がとても良く、来て良かったと思いました。この時期、アメリカは暑くて、風景は茶色っぽいんですよ。最初の週はドキドキでした。どこへ行っても外人は私一人なので、何か間違えた事や、変なこと喋ったらまずいのではと気を使っていました。でも、皆さんに優しくしてもらったり、子どもたちも一生懸命英語で喋ってくれて大変うれしかったです。

### ■特に印象に残ったことは？

学校で子供たちに教えられたのが良かったです。みんな面白い話を一杯してくれて「ステイ・ヤング」、私をずっと若いままにしてくれました。子どもたちからパワーを一杯もらいました。アフターファイブでは、職場の仲間と飲みに行ったり、留真温泉に行ったりバトミントンサークルで交流したり楽しかった。別れが本当につらいです。

### ■英語はいつ頃から学べばよいと思いますか？

これから変わってくると思うけど、本当は小学校から学ぶのがいい。一年生は何も恥ずかしがらないで発音でもなんでも頑張りますよね。建て前とかがないから本音でやれます。

### ■アメリカと日本の教育の違いは？

日本の教育にも良いところ一杯あります。たとえば、文化祭。アメリカでは大人がこうし

なさいってやるけど日本では子ども達が考えてチームでやるでしょう。それは大事な事だと思います。一番びっくりした事は、担任の先生が子どもの親みただったこと。何か問題が起きたらみんな担任の先生のところにいくでしょう。アメリカにも担任の先生はいるけどそこまではタッチしていません。子どもの教育については一生懸命なファミリーもいるしそう考えないファミリーもいます。それはどこでも変わらないと思います。

### ■浦幌の特に好きなところは？

自分が好きなところは浦幌川。隣の小道をよく一人で走りながらいろいろ考えました。こんな事があったとか、これはどうしようとか。畑もあるし、鶴もいたし、一人で静かに考えられるのが良かったです。

### ■アメリカに戻ってどのような生活をされるのですか？

二つの道があると思います。ひとつは大学へ行って勉強を続けること。2つ目は、私も日本に来て色々教えてもらったけど、アメリカには移民が大勢いるので、そういう人々を助ける仕事をしてみたいです。

### ■浦幌町の皆さんにひとこと

浦幌町に来たとき最初はドキドキしたけど、最後は本当の町民になった気がしました。アメリカに休暇で帰っても、浦幌に戻ると「ああ、我家に帰ったなあ～」という気持ちになりました。それは周りの人々がそういう雰囲気を作ってくれたからだと思います。

います。町民の皆様一人ひとりに「ありがとうございました」とお礼申し上げたいです。

## よろしく、グウェンドリンさん

### ■ALTに応募したのはなぜ？

大学のとき二人の日本人ルームメイトと生活していて、日本に興味を持つきっかけになりました。自分のやりたい仕事は英語を教えることなので、これまで、フランスやインドでも教えてきました。日本は3国目です。

### ■北海道の印象は？

東京から千歳空港に来たとき、広い畑や牧草ロールが見えたので、出身のインディアナ州にとっても似ていると思いました。

### ■大学で何を学ばれましたか？

政治学と女性学です。女性チームでラグビーもやりました。

### ■趣味は何ですか？

飛行機のパイロットライセンスを取るため講習に通っていました。ミシンで何か作るのも好きです。コーラスやバンドのベースもやりましたし、インドではベリーダンスを習いました。

### ■町民の皆さんにひとこと

日本語が上手くないので自分の言いたい事をしばらくは上手く言えないけど、間違っただけ失礼なことを言ったらごめんなさい。ここでは空手を習ってみようと思っています。街で会ったら声を掛けてください。これからよろしくお祈りします。